

太閤秀吉により天下統一の拠点として築城された豊臣期大坂城は大坂夏の陣(1615年)で落城しましたが、徳川幕府は豊臣期大坂城を覆い隠すように徳川期の大坂城を築き、豊臣期の大坂城は地下に眠ったままです。

昭和34年に「大阪城総合学術調査団」を組織し、大阪城の謎の解明を進めた結果、地下約9mに現在の大坂城の石垣とは違う、豊臣期の石垣が初めて確認されました。

昭和59年には、水道工事に関連して地下1.1mの位置に、石垣下端の高さが昭和34年に発見された石垣の天端と同じ豊臣期の石垣が本丸内地下に良好な状態で残存することが確認されました。しかし、世紀の大発見であったこれらの石垣は調査が終わると、再び埋め戻され、現在の大坂城では豊臣期の石垣を見ることはできません。

そこで、大坂夏の陣から400年の節目を迎えるにあたり、豊臣秀吉が築いた初代大坂城の石垣を再び掘り起し、大阪城の持つ、新たな歴史文化の魅力を皆様と共有したいと考えています。

太閤なにわの夢募金

平成27年4月末現在 約13,700万円

募金目標額	5億円
募金期間	平成25年4月1日～ 平成29年3月31日(予定)
募金の対象者	広く国内外の個人、法人、団体からの寄附を募ります
募金サポーター	各界著名人32名

【今後のスケジュール】

平成24年度に現地の試掘調査を経て、平成25年7月より石垣周辺の本格的な遺構調査を開始したところ徳川期の遺構が発見され、施設計画の一部を修正することとしました。今後、遺構調査の結果を踏まえ、城郭の適正な保存と活用の検討を重ね、平成29年度の工事着工を目指し、施設設計と遺構調査を行っていきます。

【今年予定している主な事業及び連携事業】

4月～9月 大阪の陣400年天下一祭 夏の陣
夏 第3回 クラウドファンディング
10月25日 大阪マラソン
11月～12月 遺構調査 一般公開



豊臣期・徳川期本丸重ね合わせ図



昭和59年発見の石垣



昭和34年発見の石垣